

サシバエ対策で酪農の生産性向上!

岡山家畜保健衛生所

1 はじめに

害虫となるハエは、数種類知られていますが、近年発生が多く問題となっているのはサシバエのような吸血性のハエです。サシバエに吸血されると牛はストレス増加と採食量の低下、乳量減少・発育不良などに陥ることがあります。また、病原菌の媒介等、飼養環境に与える影響は無視できません。しかし、酪農においてサシバエの効率的な防除は、ほとんど行われていないのが現状です。今回は、飼育現場におけるサシバエ防除の優良事例を紹介します。

2 ハエ対策は何が問題??

サシバエの生活環(図1)は、約10~14日で卵から一齢幼虫、二齢幼虫、三齢幼虫を経て蛹となり、成虫になります。ハエは繁殖力が高く一对の雌雄が交尾すると数ヶ月後には数万匹になります。そのため一度ライフサイクルが成立すると環境対策及び薬剤による防除ではハエを完全に駆除することは困難になります。また、サシバエの飛行能力は約4kmなので、地域での対策することが必要です。

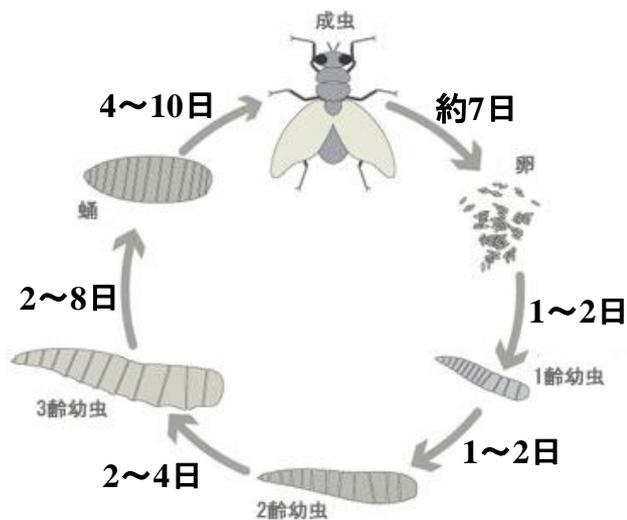


図1 サシバエの生活環

3 サシバエ対策の優良事例

サシバエは雌雄とも牛に吸血性があり、主に牛の足下や乳房の血を吸います。酪農家は乳量の減少や発育阻害などの被害を受けています。サシバエは牛舎外で発生し、成虫は日中に飛来し、吸血後は牛舎外へ飛散するので、イエバエの対策で用いられる薬剤による防除は、あまり有効ではありません。ある牧場では、1~2mm目合の防虫ネット(図2)を牛舎の外周に設置することによって外部からのサシバエの侵入防止を実践し、サシバエによる牛へのストレスを軽減することにより乳量増加につながったと真庭市で開催されたサシバエ対策研究会で報告しています。



図2 使用した防虫ネット

設置方法は、縦2m×横50mの1mm目合の防虫ネット(1枚約3万円)を2枚、牛舎の屋根側から牛舎側面を覆うように張ります(図3)。この方法は、以前の視察で防虫ネットの有効性を知り、導入したそうです。この牧場では100頭規模の牛舎ではネットをはじめ、パイプやワイヤーなど総額約20万円の費用で設置することが可能であるとのこと(図4)。防虫ネットは1mmの網の目で、サシバエの成虫の頭は2mmの大きさなので、ネットを通過して牛舎に侵入することはできないと考えられます。しかし、サシバエはわずかな隙間でも侵入するので、ネットの接続部や接地面を完全に密封することが重要です。また、出入口の部分はハエが侵入しやすいと考えられます。この牧場では、ビニールシートのカーテンで二重扉を作りカーテンの間隙は密閉されていました。牛舎周辺の雑草がハエの繁殖場にならないように周辺の草刈りも実施すると良いでしょう。牛舎内に残るわずかなサシバエは、牛舎外に出ようとネット近くの地表

から 20 c m くらいの場所に集まります。吸血後は動きが緩慢なため、いずれも駆除が可能です。

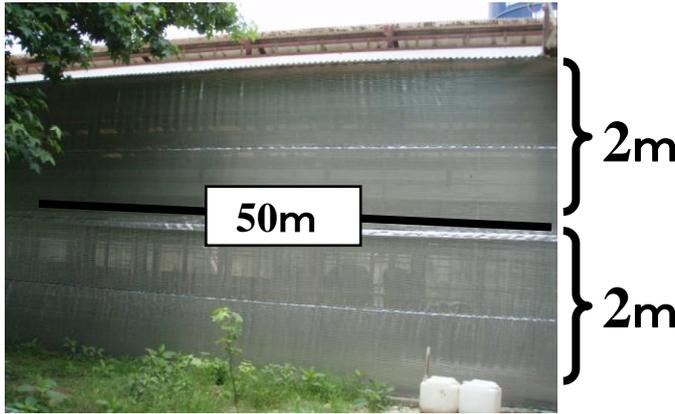


図3 防虫ネットを張った牛舎

サシバエ対策のポイント!

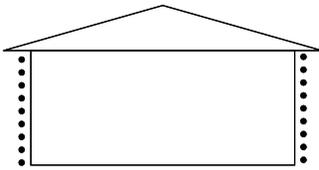
- ・ ハエのライフサイクルを成立させない。
- ・ ハエを牛舎内に入れない。
- ・ 除糞など牛舎の環境整備に努める。

4 終わりに

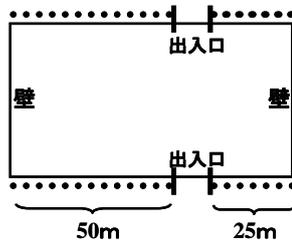
ハエの防除にはハエのライフサイクルが成立しないように、畜舎内外を清潔に保つことが第一です。また、畜舎内へハエが進入しないように網戸にすることや、出入口近くに殺虫剤を浸した縄のれんを付ける、ハエ取りリボンを吊るすなど、古くから行われている方法も有効です。

ハエの発生は人間の生活と密接に関わっており薬剤のみによる防除はなかなか困難です。また、無計画な薬剤の散布は薬剤抵抗性のハエを生み出すことにつながります。ハエのような飛翔力を持った病害虫の防除には、害虫の生態を調査し、薬剤の使用だけに頼らない対応をすることが必要です。そして、これらの対策は地域内での共同防除を実施することでより一層効果があがります。

牛舎の側面図



牛舎を上から見た図



・・・の所にネットを設置する費用約20万円

図4 防虫ネットの設置とその費用

防虫ネットの目が 1~2mm なのでネットの目にほこりが詰まり風の通りが悪くなるという弱点もあります。牛舎内に多数の換気扇を設置するなどの、通風対策も必要です。(図4)。

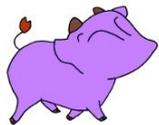


図4 牛舎内に設置された換気扇